

本人・家族への支援について

□ 各精神保健福祉センターにおいて、本人向け・家族向けの支援を実施

(大阪府) R2.5から第2・第4土曜日にも依存症相談を実施。また、家族サポートプログラムとともに、10月から本人向けの集団回復プログラムを開催。

【資料3-1】【資料3-2】

(大阪市) 依存症相談の専用電話を設置して個別相談を拡充。また、アルコール・薬物・ギャンブル等各依存についての市民講座や家族教室を開催。

【資料3-3】【資料3-4】【資料3-5】

(堺市) 個別相談を中心に、本人向けの集団回復プログラムや家族教室を定例的に開催。保護観察所堺支部と合同の薬物家族教室を開催予定。

【資料3-6】【資料3-7】

□ Voice Bridges Projectによる支援を実施

(大阪府) これまで15名の方を支援(11月末時点で14名)。うち3名が個別面接に、2名が本人向けプログラムにつながっている。

(堺市) 11月末時点で2名の支援。

処方薬等への依存について

□ 市販薬や処方薬への依存に関する啓発リーフレットを作成(府こころC)

令和元年度末(R2.2)に作成。【資料4-1】

□ 市町村での重複受診者及び頻回受診者等への取組について【資料4-2】

各市町村で、医療費適正化の取組の中で、重複受診・頻回受診や重複処方の方への指導等を実施している。

その中で、精神保健福祉センター等と連携して取り組みを行う市町村もある。

重複障がいについて

□ 重複障がいの方への支援について研修等を検討(R3年度以降の開催)

実際に各機関でどのような事例に困難を感じているかの状況を把握の上で、研修内容について検討する。

その他

□ 教育分野との連携について

部会等への教育分野の参画については、テーマによってオブザーバーとして参加を要請する方針。また、薬物乱用防止教室の枠を利用して、出前授業として依存症について生徒への教育を実施している(依存症の基礎知識や、ストレスへの対処法、相談することの大切さ、など)。

□ 介入手法について

インターベンションを含めた介入技術に関する研修等の取組については、今後検討。

□ トラウマを抱える方への支援について

令和元年度にトラウマインフォームドケアに関する研修を実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響でWEB配信に切り替え。今年度も、精神保健分野とともに母子保健分野や児童福祉分野職員を対象にした研修の中で、トラウマインフォームドケアについて取り上げた。